

- 相手の意見と自分の意見の良いところを双方の利益のためにいかなることができること。
- 双方が納得すれば以前よりも深く、よい関係を構築できること。

アメリカで育ち、本校で学んでいる子ども達は、このような環境の中で受け入れられ育っています。本校はアメリカの学校とは違いますが、キリスト教教育観に基づいて、子ども達に聖書の愛の精神と価値観を伝え実践しています。アメリカの学校で、そして本校で、ダブルに「自分自身の価値、そして周りの人に対するリスペクト」を学んでいるわけですから、子ども達の中にはたつぷりとグローバル人材の元となる素地ができていきます。

◆ グローバル人材の資質

以前私の担当した中学のクラスでこんなことがありました。日本から渡米して間もない転入生 A 君、彼はいつも 2 つ（現地校と日本語の勉強のため）の大きなカバンを担いで登校してきました。日本から渡米していきなりこちらの高校に入ったわけですから、英語の勉強では相当苦勞していたようで、短い時間を縫っては英語の勉強をしていたわけです。そんなある日、その様子を見ていた同じクラスのアメリカで生まれ育った B 君が、彼の英語の宿題をサポートし始めたのです。彼らは同じように 2 つの言語で 2 つの学校で勉強をしているクラスメートですが、日英言語の能力のバランスはまったくの逆です。渡米後間もない生徒は英語では簡単な問題一つも辞書を引かなくては理解できません、かたや永住の子は日本語で小学校の国語の教科書を音読するのもおぼつきません。興味深く見ていたのですが、しばらくすると、彼らは互いの弱い部分を補い合うようにクラスで互いの勉強を助け合うことをはじめたのです。A 君は B 君の日本語の勉強を援助し、B 君は A 君の英語の勉強をサポートし始めました。それぞれが自分の得意分野を生かして相手の弱い部分を助けること、互いの弱い部分を補い合うことを誰から教わることもなくやり始めたのです。互いの違いを尊重し、そして互いの必要を満たすそのような姿勢は、彼らの絆をととても強いものとしていきました。



◆ 補習授業校の働きと人材育成

こちらで 2 つの言語と 2 つの文化の中に生き、学んでいる子ども達は、そのことによって必然的に高い言語能力、コミュニケーションスキルを身につけていきます。しかし、彼らの本当のアドバンテージは言語の力だけではなく、高い人間力につながる広く多面的な視野、柔軟な考え方、弱い立場のものの痛みを知ること、互いを活かす方法などを自然な形で学ぶことができる環境にいるということです。前述の「グローバル人材の定義」や「グローバル人材の資質」を目にしたとき、私は思わずハッとさせられました。なぜならば、その定義や資質が、アメリカ（本校）で学んでいる実に身近な子ども達の持っている人柄や品性と重なって見えたからでした。2 つの言語 2 つの文化の中で生きている子どもたちは、自らが意識するしないにかかわらず、日々、その環境においてグローバル人材となるトレーニングを受けているのです。そのことを思うとき、海外にある補習授業校として、彼らの成長にかかわることは、将来の日本を背負って立つバイリンガル、バイカルカルチャーのグローバル人材育成の尊い働きであるということを再確認させられ、ピリッと気が引き締まる思いがしました。



三育学院は、シリコンバレーにある、ユニークな補習授業校です。創立 30 年近く経ち、約 400 人の児童生徒が通う私立校です。

私は、この 15 年位、教育フェアや講演会で毎年訪問する機会に恵まれ、学校・授業・生徒指導の様子をじっくり見る事が出来ました。

長い間勤務されている多くの先生方は、日本の教育・進学事情に詳しくだけでなく現地の教育もよく理解し、週日 2 回通ってくる子どもの学習状況だけではなく生活や適応の悩みなどをよく理解しておられます。「児童生徒と先生の距離の近い学校」です。

その先生方の言葉には「海外での子育てと教育」への知恵や体験が豊富に含まれています。その栄養を、このコラムで紹介させていただきます。

補習授業校 三育学院サンタクララ校

Saniku Gakuin Santa Clara Japanese School
4250 Latimer Ave. San Jose, CA 95130 U.S.A.
TEL : 1-408-378-8190, Fax : 1-408-378-1190
HP : www.saniku.org, E-mail : info07@saniku.org